

# 確認テスト（第2回）

1. データ転送速度単位は\_\_\_\_\_で表す。\_\_\_\_\_は、1秒間に転送できるビット数である。
2. \_\_\_\_\_基本参照モデルとは、\_\_\_\_\_が制定した、異なるシステム間の相互接続に関するネットワークの標準モデルである。
3. \_\_\_\_\_とは、コンピュータをLANに接続するために、コンピュータの拡張スロットに取り付ける拡張カードである。
4. \_\_\_\_\_アドレスは、NICやルータなどのネットワーク機器に書き込まれている、\_\_\_\_\_ビットの識別番号である。
5. ICMPの機能を利用したユーティリティとして、\_\_\_\_\_がある。
6. IPv6での最大の変更点は、IPアドレスの長さが\_\_\_\_\_ビットから\_\_\_\_\_ビットになることである

# 確認テスト（第3回）

1. Ethernetでは、アクセス制御に\_\_\_\_\_方式を採用し、トポロジは、  
\_\_\_\_\_型と\_\_\_\_\_型の2種類がある。
2. Wi-Fi 5の無線LAN規格\_\_\_\_\_に対応する機器は、\_\_\_\_\_帯の周波数帯を利用する。
3. Wi-Fi 6の無線LAN規格\_\_\_\_\_に対応する機器は、\_\_\_\_\_帯と\_\_\_\_\_帯の2つの周波数帯を利用できる。
4. 100BASE-TXのEthernet規格の通信速度は\_\_\_\_\_である。
5. 光ファイバーを利用した1000BASE-SXや1000BASE-LX、1000BASE-TなどのEthernet規格の通信速度は\_\_\_\_\_で、10GBASE-TのEthernet規格の通信速度は\_\_\_\_\_である。

# 確認テスト（第4回）

1. \_\_\_\_\_とは、インターネット上のIPアドレスの割り当てと経路選択の自由度を上げ、柔軟に運用する仕組みである。IPアドレス133.141.123.250/16のサブネットマスク表記は\_\_\_\_\_である。
2. \_\_\_\_\_とは、インターネット上のドメイン名とIPアドレスを対応させるシステムである。
3. HTTPSは、HTTPに、\_\_\_\_\_によるデータの暗号化機能を付加したプロトコルである。
4. Webサーバからのデータ受信には、\_\_\_\_\_という通信プロトコルを利用する。
5. Webページは、\_\_\_\_\_という言語仕様に従って記述される。

# 確認テスト（第5回）

1. ムーアの法則により、\_\_\_\_\_は約18ヶ月で2倍になる、ということである。
2. CPU並列計算には、\_\_\_\_\_型と\_\_\_\_\_型の2種類が存在し、現在主流となっているのは\_\_\_\_\_型である。
3. \_\_\_\_\_は、並列処理に対する性能向上の指標を示す。
4. CPUとGPUのヘテロジニアス構成では、GPU計算は\_\_\_\_\_して使用される。並列化しにくい部分は\_\_\_\_\_で、並列化しやすい部分は\_\_\_\_\_で処理される。
5. ムーア法則に従った汎用プロセッサの\_\_\_\_\_の性能向上が望めない中で、\_\_\_\_\_が性能向上の鍵となる。

# 確認テスト（第6回）

1. Javaアプレットは、\_\_\_\_\_で動作するJavaプログラムである。
2. Javaサーブレットは、\_\_\_\_\_で動作するJavaプログラムである。
3. クッキー（Cookie）は\_\_\_\_\_上で生成され、\_\_\_\_\_を介してクライアント側のコンピュータに一時的に保存される\_\_\_\_\_ファイルのことである。
4. CGIは、\_\_\_\_\_からの要求に応じて、\_\_\_\_\_がプログラムを起動するための仕組みである。
5. WebサーバとDBサーバで構成する2階層システムに比べ、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_で構成する3階層システムは、システムの変更や強化などが容易で、セキュリティ性も高い。

# 確認テスト（第7回）

- 最初の導入時にかかる費用は、\_\_\_\_\_費用という。システムを使用している間かかり続ける費用は、\_\_\_\_\_費用という。
- 要件定義も含め、外部設計では、\_\_\_\_\_の立場に立って\_\_\_\_\_を中心に行う。
- 内部設計は、\_\_\_\_\_側または\_\_\_\_\_開発側から見た設計である。
- システム開発の代表的手順として、\_\_\_\_\_から、外部設計、内部設計、プログラム設計、プログラミング、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_までが含まれる。
- \_\_\_\_\_とは、プログラム言語を用いて実際にプログラムを作成することである。プログラムは、コーディングしただけで完了でない。プログラム設計書に基づいた\_\_\_\_\_を行って完成する。

# 確認テスト（第8回）

1. 単体テストは、システム開発における最小単位である \_\_\_\_\_ に対して行う。
2. 単体テストの種類として、 \_\_\_\_\_ や、 \_\_\_\_\_ などが存在する。
3. 単体テストが終了したモジュール同士を結合し、モジュール群として正しく動作することを確認するのが \_\_\_\_\_ である。
4. \_\_\_\_\_ は、総合テストとも呼ばれ、システム開発側主導の最後のテストになる。
5. \_\_\_\_\_ は、ブラックボックステストとして行われ、主要機能から開始し、周辺機能へと範囲を広げ、最終的にはすべての機能をチェックする。
6. 段階的に新システムを導入していく方法は \_\_\_\_\_ 転換法という

# 確認テスト（第9回）

1. MTBFの英語は\_\_\_\_\_である。
2. MTTRの英語は\_\_\_\_\_である。
3. 情報システムが必要なときにいつでも利用できるという可用性は、情報システムの分野において、一般的に\_\_\_\_\_という指標で評価する。
4. 装置1の稼働率が90%、装置2の稼働率が80%とするならば、直列システムの稼働率は\_\_\_\_\_である。
5. メインサーバの稼働率が90%、サブサーバの稼働率が60%とするならば、並列システム全体の稼働率は\_\_\_\_\_となる。
6. メインサーバの稼働率が80%、サブサーバの稼働率が70%とするならば、並列システム全体の稼働率は\_\_\_\_\_となる。

# 確認テスト（第10回）

1. システムへの負荷を分散するための仕組みを持ったシステムは、\_\_\_\_\_システムという。
2. \_\_\_\_\_システムは、すべてのCPUでOSと主記憶装置や外部記憶装置を共有し、複数のプロセッサ（CPU）を用いて処理を行うシステムである。
3. \_\_\_\_\_は、常時予備システムを稼働させ、データも同期しておくので、コールドスタンバイに比べてコストがかかるが、その分信頼性は高くなる。
4. \_\_\_\_\_（英語略語：\_\_\_\_\_）は、停電や瞬断の際に、コンピュータに切れ目なく電力供給する装置である。
5. マスター・システムの更新完了後に、予備・システムにデータ転送して予備・システムを更新させる形態の同期レプリケーションの場合、データの\_\_\_\_\_検証が行われないと、\_\_\_\_\_が発生する可能性がある。

# 確認テスト（第11回）

- 保守業務は、業務の性質から次の4つに分類できる：\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_。
- 脅威の類型として、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_などがある。
- DoSの英語は\_\_\_\_\_である。
- インターネット上の複数の端末から一斉に特定のサーバに大量のパケットを送付する攻撃を\_\_\_\_\_攻撃という。
- 情報セキュリティとは、\_\_\_\_\_性、\_\_\_\_\_性、\_\_\_\_\_性を確保・維持していくことである。
- 情報システムのセキュリティ機能として、\_\_\_\_\_機能、\_\_\_\_\_機能、\_\_\_\_\_機能がある

# 確認テスト（第12回）

1. \_\_\_\_\_とは、利用を許可されていない者が施設への入室や端末機の操作ができないように制限をかけることである。
2. \_\_\_\_\_は、インターネット上で認証技術によって保護された仮想的な専用回線を提供するネットワークサービスである。
3. \_\_\_\_\_とは、コンピュータやネットワークに対する不正行為を検知・通知するシステムの総称である。
4. SSLの英語は\_\_\_\_\_である。TLSの英語は\_\_\_\_\_である。
5. 代表的な秘密鍵暗号方式として\_\_\_\_\_がある。公開鍵暗号方式として\_\_\_\_\_が広く普及している。

# 確認テスト（第13回）

1. 統計解析は、\_\_\_\_\_のデータを分析して、\_\_\_\_\_を予測する手法である。
2. \_\_\_\_\_は、標本となるデータの和をデータの数で割ったものである。異常値に\_\_\_\_\_。
3. \_\_\_\_\_は、標本となるデータを小さい順（または大きい順）に並べて中央に位置するデータの値である。
4. 期待値は確率と確率変数の\_\_\_\_\_の和である。
5. 不良のような割合の非常に小さな特性（例えば、不良率0.1%）に注目する場合には、二項分布に代わって、\_\_\_\_\_分布を使用する。
6. \_\_\_\_\_は、ある時刻までに故障が発生する確率の計算などに使用する。

# 確認テスト（第14回）

- \_\_\_\_\_とは、母集団から無作為に抽出した標本から、未知である母数（母集団の平均や分散）を定めることである。
- \_\_\_\_\_とは、無作為抽出された標本の平均や分散から、未知の母数をひとつつの値で推定することである。
- \_\_\_\_\_とは、無作為抽出された標本の平均や分散から、未知の母数の存在しうる範囲を推定することである。
- \_\_\_\_\_は、目的変数  $y$  と説明変数  $x$  の間に「 $y = a + b \times$ 」などの関係式を想定し、両変数間の関係を調べるとともに、 $x$  による  $y$  の予測を目的とした統計分析法である。
- \_\_\_\_\_は、複数の変数間の類似性に着目して、似ている変数同士をグループ（クラスター）化して分類する手法である。